

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 3年 12月 16日

公表:令和 3年 12月 27日

事業所名: ハビネス国際児童発達支援

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0		
	② 職員の配置数は適切である	11	0		
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	1	階段、トイレには手摺が設置されている。階段には滑り止めが貼ってある。	バリアフリーになっていないので車いす利用の子どもも受け入れが難しいのが現状である
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11	0		
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	11	0	毎朝ミーティングでの申し送り、毎月の職員会議にて意見を出し合っている	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11	0		
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	0		
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11	0		
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	2	毎月の職員会議での勉強会、外部研修に参加している	外部研修の参加者は会議等で報告し、全員が周知できるように、支援の質を高めるよう努めているが、全ての職員が外部研修に参加できるような体制を整えるべきである。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11	0		
	⑪ 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	0		関係機関の発達検査の結果等の情報も提供してもらい、発達状況を把握し達成目標に向けた支援計画に生かしていく
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11	0		
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	0		
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	11	0	前日の様子、1週間の様子などを合わせて内容確認している。	集中力を養う活動やコミュニケーション能力の向上を図るような活動プログラムを取り入れていく
	⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	0	個別でセラピーを取り入れ、発達に応じた心理教育を行っている	発達に応じた療育方法を心掛け支援していく
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	11	0	発達に応じて、個別・集団活動を組み合わせ支援計画書を作成している	集団・社会での適応性の課題にも対応していく
	⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	0	打ち合わせで気になっている事を話し支援に必要な活動アイテムを作って工夫している。	
	⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	0	職員の間で個々の気になったことを話し記録に残し、保護者に連絡している。	日々の気づきは記録し、改善に繋げていく
	⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	0	リズムを活用し、日々の記録を記入している	記録方法について細かな気づきも踏まえて記録できるよう指導員の知識向上にも努めていく
⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	0	8ヶ月毎のモニタリング、その他必要に応じてのモニタリングを行い、見直しの必要性を判断している		



関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	11	0	児童発達支援管理責任者と担当者などの適任者が参加している	参加後は報告し、職員間での情報共有に努めていく
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	11	0		母子保健や子ども・子育て支援等の関係機関とも必要に応じて連携した支援が行えるよう努める
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11	0		現在在籍児童はいないが、必要に応じて連携した支援を行っていく
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもと主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11	0		必要に応じて主治医の指示書を元に緊急時の対応等連絡体制を整える
	㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0		保護者からの情報提供のみなので、関係機関との情報共有と相互理解ができるよう働きかけが必要である
	㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0		必要であれば担当者会議を設け、情報共有と相互理解に努めている
	㉗ 他児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	0		講演会や研修に参加している
	㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	2	地域の公園などに出かけ、地域の子どもたちと触れ合う機会を設けている	子ども園、幼稚園との交流活動はないが、交流する機会を設けていきたい。
	㉙ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	6		情報収集を行い積極的に参加できるようにしていきたい
	㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0		日々のリズムでの報告や必要であれば保護者に連絡し、個別で相談の時間も設けている
保護者への説明責任等	㉛ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	11	0		ペアレントトレーニングの研修会で学んだことを取り入れた支援を行っている
	㉜ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	1		契約時に説明を行い、随時不明な点は説明できるようにしている
	㉝ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	11	0		
	㉞ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	0		相談援助、相談支援を行っている
	㉟ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	5		現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催していない。
	㊱ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0		
	㊲ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0		活動の様子など写真を用いて発信し、連絡事項等の情報も発信している
	㊳ 個人情報の取扱いに十分注意している	11	0		
	㊴ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0		意思疎通ができない子どもには見守りを強化し、声かけをしている。
	㊵ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	8		要望があれば、見学等可能な体制を整えている
非常時等の対応	㊶ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	0		マニュアルについて対応方法の確認を行っている
	㊷ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0		年2回、避難ルートを変更しての訓練を行っている
	㊸ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11	0		アセスメントにて服薬、てんかん発作等の有無を確認しており、発作等ある方は発作時の対応についての同意書を作成している
	㊹ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	10	1		アセスメントにて食物アレルギーの有無、医師の指示の有無について確認している
	㊺ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0		事例があった場合、報告書に記載し、職員会議にてヒヤリハット検証を実施し、事故防止へと繋がっている
	㊻ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0		外部の研修に参加したり、職員会議にて研修を行っている
	㊼ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11	0		対象児童がいる場合、保護者に説明、了解を得た上で個別支援計画に記載しており、解除までの経過観察・再検討記録もしている

【事業所における自己評価集計結果グラフ】

